

大正元 (1912) 年 枕崎電灯会社設立され、枕崎に電灯ともる。

2 (1913) 年 枕崎漁業組合防波堤 (ガンギ) にアーク灯を点  
灯する。

3 (1914) 年 枕崎港の築港工事始まる (同7年10月完成)。

大正3年には、全体で遭難船28隻、溺死者13名の台風被害がありました。

枕崎では、港内の船が被害を受け、3名が溺死しています (右写真)。

同6年には、枕崎や坊之津の船などが暴風のため難破し、溺死および  
行方不明者70名を出しています。

7 (1918) 年 村役場竣工し移転する (現在の枕崎中の場所)。

鹿兒島測候所、気象観測を開始する (左写真)。

役場はそれまで桜山地区にありました。明治く大正にかけて、鹿兒島  
に通じる4本の県道が枕崎まで開通したり、水産業もめざましく発展し



ました。人口も市街地に急速に集中していました。枕崎地区に役場を移転しようとする動きがありましたが、村会議も世論も二分されました。村長・助役の辞職（空白期間は68日）にもなりましたが、他市町村関係者の調停により、移転が決定しました（大正5年6月 右写真は移転後の役場）。

大正8（1919）年 塩田跡を買収し、村設運動場とする。

10（1921）年 枕崎郵便局電話業務を開始、枕崎に電話架設される。

枕崎に初の製氷会社できる。

枕崎に漁業通信用、伝書鳩の使用始まる。

大正12（1923）年 町制を敷き、枕崎町となる（左写真は祝賀会）。

これまでは東南方村です。明治の初期に枕崎村がありますが、今の枕崎市の一部です。今の広さの行政区域として、初めて枕崎という地名が使われました。枕崎という地名は、もともとは瀬崎という1つの岬付近と考え



られます（2ページ参照）が、港町としての発展から、今の枕崎市全体の地名として使われることになりました。

大正14（1925）年 カツオの漁製分離成る。揚場でカツオの入札始まる。

昭和元（1926）年 枕崎に初めてラジオ現れる。

3（1928）年 枕崎漁業組合倶楽部内に無線電信局を開設し、漁船との交信を開始。

枕崎港島堤の築造に着手 昭和5年完成、同6年灯台建設

左写真は、昭和4年の市街地の様子です。

昭和5年には、7/17の台風で、倒壊家屋92戸、死者1名、船舶大破9隻です。

昭和6（1931）年 南薩鉄道、枕崎まで開通

紅茶アッサム種、妙見の委託試験地で露地栽培

に成功



昭和初期、紅茶樹が知覧と枕崎に試験導入されますが、知覧は冬の気温が低いいため、紅茶には適しませんでした。昭和14年には、妙見（下写真）に県立枕崎紅茶試験地が設置され、翌年には、知覧で育成中の紅茶原種のすべてが温暖な枕崎へ移されました。

昭和23年には、紅茶園は約40haにもなります。同41年には、近郊で410トンの紅茶を集荷し、県内総生産額の50%に及んでいます。この間、農林水産大臣賞を7回受賞しています。

なお、昭和46年には、紅茶の自由化に伴い、紅茶の集荷は中止され、20余年に亘る紅茶事業は終わりを迎えました。



- 昭和7（1932）年 枕崎港、階段式の荷揚用岸壁築造着工（同9年完成）
- 12（1937）年 鹿児島県水産試験場本場、鹿児島市より枕崎に移転する。
- 13（1938）年 枕崎上水道敷設起工（同16年竣工）

日本からのブラジル移住は、明治41年から始まっていますが、県の記録では、昭和15年までに5297人が移住しています。その中で、枕崎からは679人で、最も多くなっています。

昭和17年には、台風16号のため、死者2名、全壊家屋182戸、船舶流失及び大破33隻です。

昭和18（1943）年 金整備令により春日、鹿籠金山閉山となる。

20（1945）年 枕崎大空襲により、死者42人、2315戸を焼く（7/29）。

空襲により、枕崎の県水産試験場が焼失し、鹿児島市に移転する。）

枕崎台風襲来し、死者12人、住家の倒壊2339戸（9/17）。

枕崎台風は、最低気圧917hPa、最大風速は推定で50 m 最大瞬間風速は東南東の風62.7 mで  
す。枕崎では、約30分間「台風の眼」現象が現れました。全国で死者は2  
076人、行方不明は1046人にのぼりました。中でも、広島県は死者  
・行方不明合わせて2012人になっています。原爆で壊滅的な被害を受  
けた直後で、台風の被害も大きくなりました。鹿児島県は死者104名、  
行方不明25名です。

昭和24（1949）年 市制を施行し、枕崎市となる（左写真は祝賀会）。



階段式の港岸壁を直立式に改築着工 同35年工事完了)

市制について。枕崎町は昭和16年には、既に人口は3万人を超えていました。市制施行の動きは戦時中にもありましたが、昭和23年、市制促進同盟が結成されました。面積74・61平方<sup>百</sup>、人口3万2919人、県下で4番目、全国で234番目の市誕生でした。戦災で市街地の9割を失い、枕崎台風で壊滅的打撃を受けたまちの立ち上がりとしては、全国でも早いものでした。下写真は、この頃の市街地の様子です。

昭和26 (1951)年 枕崎港第三種漁港となる。

ルース台風襲来し、死者27人、重軽傷373人、

家屋流失全半壊3223戸 10/14)

ルース台風は、最低気圧945<sup>百</sup>、最大風速は42・5m 最大瞬間風速は推定で60mです。この台風の特徴は、高潮を伴った台風ということでした。枕崎始まって以来の災害となりました。高潮については、標高13mにある枕崎小学校の校庭も海水に浸かったそうです。被害総額は、25億53



00余万円にも及びました。

死者27名、全壊家屋664戸、流出家屋641戸、床上浸水206戸、床下浸水470戸です。あまりの被害の大きさに、緊急に開かれた市議会の結論は、自力では、絶対に立ち上がれない」という絶望的な見通しでした。

鹿児島県の死者は126名、全国では572名です。右写真2枚は被害の様子です。



昭和27年以降、枕崎市に被害をもたらして主な台風は、平成元年までの37年間に48個になります。1年当たり約1.3個となります。最大瞬間風速が50mを越える台風は5個、40m以上は20個になっています。

「台風銀座」と言われるだけのことはありますね。

昭和28 (1953)年 県道、川辺線と指宿線が国道となる。

30 (1955)年 市庁舎、千代田町に竣工し移転する (左写真)。



なお、戦災復興・台風災害の復旧工事・インフレ等による赤字財政のため、昭和30年度より、10年間、財政再建団体（地方債を起こすことができる）となり、財政危機を切り抜けました。昭和29年度における枕崎市の実質赤字は、6000万円を突破していました。

5年おきに行われる国勢調査では、枕崎市の人口は、この年の3万5546人が最高です。

- 昭和33（1958）年 枕崎港南防波堤延長工事竣工
- 36（1961）年 枕崎港新港建設着工
- 37（1962）年 県道、加世田線、国道となる。
- 38（1963）年 国鉄、指宿枕崎線開通（下写真）。
- 39（1964）年 枕崎市畜産センター建設。



戦前から養豚業は、「鹿籠豚」として有名（29ページ参照）でしたが、戦後においても、枕崎は良種のバークシャーが残っており、フィリピンや台湾など海外輸出（毎年30〜40頭ずつ）がさかんに行われました。

昭和39年には、ある北海道の養豚家が種豚30頭を購入するため、イギリスに行きましたが、いい



豚がなく、オーストラリアに渡ったところ、黒豚の良種がほしいなら、日本の枕崎に行け」と現地のイギリス人にいわれ、帰国後、枕崎から37頭を買い付けて帰ったこともありました。

昭和44（1969）年 枕崎港、特定第三種漁港に昇格する。

45（1970）年 別府畑地かんがい事業着手（左写真）。

このかんがい事業は、南薩台地2市4町 枕崎・指宿・穎娃・山川・開聞・知覧）の畑地6072haで、受益農家1万325戸の畑地かんがいを目的にしています。南薩台地の半分を区画整理し、池田湖から水を引いて潤そうという大がかりなものでした。昭和56年に通水を開始しています。

平成元年度では、枕崎市は、613haの面積で、受益者農家は1148戸です。カンショ作中心だった農業から、実エンドウ、ソラマメ等がハウス栽培され、中心の茶業は、122haで作付面積の28%を占めています（右写真）。

また、この頃には紅茶産業が終盤となっていた（33ページ参照）ため、



国見地区・野平地区等をおわきりに、集団機械化、茶園造成の取組がなされ、緑茶の増産体制が進みました。

昭和61年には、日本茶業中央会長賞も受賞しています。

昭和63年の緑茶の取扱高は13億円で、2年連続県で2位となっています。

昭和49（1974）年 大型産地冷蔵庫、松之尾町に完成。

50（1975）年 カツオ節の冷蔵庫完成。

公共下水道事業、建設大臣認可、着工。

この頃には、大塚地区でフラワー農場の設置、ガラス温室や集出荷施設の導入によって、規模拡大を図り、南九州でも屈指の花き集団産地として発展しました。昭和26年、木造のガラス室でのユリの促成栽培がきっかけです。その後、30年代に振興会が設置されました。

昭和63年には、花き栽培農家は約80戸、栽培面積は47.3ha、うち電照菊、ユリ、カーションなどの施設花きが38.6haで、中心となっています（写真はハウスと電照菊）。



昭和52 1977年 花渡川改修工事 同25年から27年間）終了。

枕崎港の広さを4倍にする大規模外港整備始まる。

57 1982年 南薩地域地場産業振興センター完成。

59 1984年 公共下水道終末処理場水処理系完成。

60 1985年 外港入り口に海洋センター設置

枕崎港外港開港 総事業費約145億円

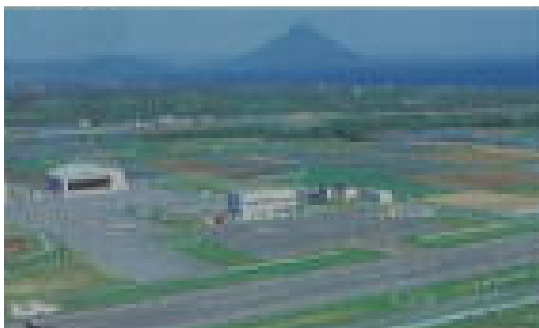
昭和61 1986年 枕崎港外港に枕崎市水産センター完成。

62 1987年 第7回全国豊かな海づくり大会を開催

63 1988年 片平山に文化資料センターなんめいかん南浜館オープン

この年の農業生産額は約93億円で、漁業の水揚げ高は103億円です。

平成元 1989年 枕崎空港起工式 (写真)



【主な参考文献】

- ・ 枕崎市誌 上・下）『枕崎市誌編さん委員会 平成2年）
- ・ 鯉節 上・下） 菅下章著 社団法人日本鯉節協会 平成元年）
- ・ 『日本歴史地名大系第47巻 鹿児島県の地名』 平凡社 1998年）
- ・ 『県史46 鹿児島県歴史 第2版』 原口泉他著 山川出版社 2011年）
- ・ 『街道の日本史55 鹿児島島の湊と薩南諸島』

松下志朗・下野敏見編 吉川弘文館 2002年）